

機関番号：13701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19520695

研究課題名（和文）大衆音楽から探る現代アラブの音文化—グローバル化とイスラーム復興運動とアラブ主義

研究課題名（英文）An Exploration of Modern Arab Sound Culture through the Popular Music: Globalization, and Islamic Revivalism, and Arabism

研究代表者

青柳 孝洋 (AOYAGI TAKAHIRO)

岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号：10377690

研究成果の概要（和文）：

現代アラブ世界の音文化、特にアラブ・ポップと称される大衆音楽が本研究の中心課題である。調査をする際、グローバル化、原理主義とも称されるイスラーム的な宗教復興運動、そしてインターネットや衛星放送をはじめとするメディアの発達を考慮した。20世紀末頃からのこれらの環境的な変化は、情報の伝達を容易にし、国境を越えた人や文化の交流を増大化させており、現在に至るまで、アラブ音文化の質的变化に大きく寄与している。

研究成果の概要（英文）：

The topic of the present research is the sound culture of modern Arab world through its popular music referred to as Arab Pop. Factors to be considered in this research included globalization, the religious revivalism in Islam (which sometimes is referred to as Fundamentalism), as well as the development of new media such as the Internet and the satellite television. Such environmental changes since the late 20th century, while facilitating the transmission of information and increasing the human and cultural interaction beyond the traditional borders, have transformed Arab sound culture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：アラブ、大衆音楽、音文化、メディア、イスラーム

1. 研究開始当初の背景

20世紀末頃からのアラブ世界で若者に人気のある音楽は、ウム・クルスムやファイрузなどの20世紀的なアラブ音楽とは大きく様変わりしたものであるとされている。現代アラブ世界で人気のある音楽の中には

欧米のポピュラー音楽はもとより、アルジェリア由来のポップ・ライのようにもともと北アフリカ地域に限定された存在であったものも商品として欧米の音楽市場を経由した結果、他地域でも人気を得るようになったものもある。現代的のポピュラー音楽は単に音

楽や音文化についてのみならず、現代社会を読み解く鍵となるものである。

現代アラブの音文化は、以下の音楽外の要因に強い影響を受けていることが予想された。そのひとつはグローバル化とそのアラブ・ムスリム世界への影響であり、2つ目は原理主義とも称される宗教復興運動、そして3番目はそのほかの汎アラブ主義的思想などのイデオロギーだった。

2. 研究の目的

現代アラブ世界の音文化を調査研究し、以下の疑問に対する答えを用意する予定である。

1)現代アラブ世界で実際にどのような音楽が人気を集めているのか？

・シリア(アレppo)、ベイルート(レバノン)、エジプト(カイロ)、チュニジア(チュニス)等、音楽文化の中心地としてアラブ音楽に大きな影響を与えてきた地域の調査、そして近年とみに存在感を増しているアラビア半島の調査。

2)上記1)で導き出された音楽が支持される理由は何か？

・音楽家やそれを取り巻く社会状況についての分析

・音楽的要素についての分析

・文化・宗教政策と大衆音楽文化の関連についての考察

3)中東における音楽のグローバル化の程度と、それがアラブ音楽にどのような影響をもたらしているか？

・欧米資本の中東音楽業界進出の実態とその中東音楽に対する影響

・経済的な仕組みと環境が音楽活動に与える影響

4)宗教的・政治的環境は音楽にどのような影響を与えているか？

・音楽を否定しようとするイスラーム主義者の運動とそれに対する民間の音楽関係者と政府の文化・音楽教育担当者などの対応

・現代における汎(大)アラブ主義についての調査

3. 研究の方法

中近東で資料の収集や関係者へのインタビュー、参与観察を中心とした現地調査。研究期間として平成19年から22年度末までの4年間。調査地域は中東アラブ文化圏から、シリア(アレppo)とレバノン(ベイルート)を中心に、エジプト(カイロ)、チュニジア(チュニス)、湾岸アラブ諸国などを含めた。左記の地域は伝統的な音楽文化の中心地としてアラブ音楽に大きな影響を与えてきており、その重要性から調査が必要と考えた。それとともに政治体制の宗教にたいする姿勢が異なることから、文化・宗教政策と大衆の音楽文化の関連についての考察も必要。

曲の構造の分析を通じて音楽的要素を抽出する。そしてどのような楽器がどのような編成で使用されているか、また演奏様式の調査、歌詞の分析、音楽家、主に歌手についての調査を含む。

4. 研究成果

多くのイスラーム宗教指導者が音楽を禁じるファトワーを出す一方、アラブ・イスラーム圏でも、音楽文化は存在し続けている。本研究ではどのような音楽がムスリムを中心とした現代アラブの人々に人気があるのかを調べることを主目的とした。彼らにとって宗教的制約がどのような拘束性を持つのか、そして彼らが支持する音楽はどのような制約に起因する問題をどのように解決しようとしているのかを探る。

アラブ世界で今日人気を集めている音楽とその理由—その1

①アラブ・ポップ

現代アラブ世界で実際に人気を集めている音楽ジャンルとしてまず言及しなければならないのがアラブ・ポップというジャンルである。アラブ・ポップとは1980年代頃に人気が出始めたアラブ世界の大衆音楽であるが、欧米のポップスが音楽に強い影響を及ぼしていると考えられる。20世紀的な大衆歌謡、例えばアラブ世界の最大の歌手として圧倒的な人気を誇ったウム・クルスームなどの歌曲では、歌手が技巧を凝らしながら歌い上げるのが特徴である。

一方、より新しいアラブ・ポップと呼ばれるジャンルでは、個々の歌手の声楽的な技量はさほど重視されていない。歌曲としての構造を分析すると、アラブの伝統音楽のマカーム旋法やイーカーウのリズムなどの技法を駆使したものはみられない。

ポップ・ミュージックとして、ダンスブルでキャッチーであることがヒット曲になるための条件となっていることがアラブ世界でも顕著になってきているといえよう。しかし同時に、アラブ・ポップとしての存在意義は多少なりともアラブ的な雰囲気伝えることであり、アラブ音楽的な要素が意識的、あるいは無意識的に挿入されることである。

このことを最も端的に示していると思われるのが、アラブ・ポップで多用されているマクスームと呼ばれる短い2分割系4拍子のリズムである(下記参照)。

Maqsūm (マクスーム) のリズム

4/4 DT -T D- T-

(D=dum 強拍, T=tak 弱拍, -=休止)

特にレバノンやシリア発のポピュラー音楽に強くこの傾向が現れるが、他のアラブ世界の地域のポピュラー音楽、例えばエジプトでも同リズムがみられる。またマクスムを使わない場合でも、リズムは2分割系4拍子であることが一般的である。青柳孝洋（2010）にも述べていることであるが、このような4拍子系のリズムは、欧米的ポップスの旋律構造と相性が良い。

しかしすべてのアラブ・ポップが上記のようなリズムを用いているわけではない。殊にアラビア半島系のハリージと称される音楽にルーツを持つ湾岸のアラブ・ポップに違いが顕著に現れている。このハリージと称されるジャンルの音楽では、ポリリズムやシンコペーションが多用されており、上述の地中海東岸系のアラブ・ポップとは、まったく別のリズム感が表現されている。（ハリージ様式のポピュラー音楽については先行研究も少ないので、今後一層の調査が期待される。）

アラブ世界で今日人気を集めている音楽とその理由—その2

②ナシード・ディーニー

アラブ・ポップ以外の音楽ジャンルとしてアラブ・イスラームの世界で、近年とみに人気があるのが、ナシード・ディーニー（もしくは単にナシード）と称される歌謡である。アラビア語で、ナシードは「歌」を意味し、ディーニーは「神の」、とか「宗教的」を意味する言葉である。従ってナシード・ディーニーは直訳すれば、宗教的歌謡を意味するが、もっぱらイスラームの宗教にかかわる内容が歌詞で表現されている歌である（青柳孝洋 2008）。例えばイスラーム宗教の神アッラーやこの宗教の創始者とされる預言者ムハンマド、彼の教友とされる人々、などについて表現した歌を意味する。もともと上記のように歌詞を誰が聞いてもイスラームに関係をしているのが明白なものがナシード・ディーニーである。当該ジャンルは、音楽全般に対して社会的有用性を認めず、どちらかというところ蔑視し排除しようとしてきた歴史を持つイスラームという宗教においても、その歌詞内容、そして楽器を使用しない無伴奏であるという点から、イスラームの教えに反しない「正しい」歌とされることが一般的に多い。

しかし20世紀後期より、伝統的なものとは異なる内容を扱い、歌詞として一見宗教とは無関係に聞こえるようなものが登場してきている。そのような「非伝統的」なナシード・ディーニーにおいては、例えばパレスチナのインティファダほかの民族問題などを扱った政治的な歌、人権についての歌、環境保護などを訴える歌など様々である。

その歌詞内容はイスラーム的に問題が無

いという説明をされる。このことから、音楽であるものの、ムスリムにとって聞いていても宗教的な意味から心理的な葛藤を生じさせないため受け入れられやすいようだ。また肌を露出した女性がダンスをするアラブ・ポップに対して宗教的罪悪感を憶える人達は、そのようなダンスが登場しないナシード・ディーニーを家族で安心して楽しめるのである。

歌詞内容の広がりには上述したとおりだが、さらに注目すべき点は、楽器の使用である。これまで多くのイスラーム指導者の解釈でもダフなどの打楽器はその使用が許されてきたという経緯がある。しかし、今日新しく登場してきたナシード・ディーニーの一部には、これまで反イスラーム的として否定されてきた打楽器以外の楽器、例えばヴァイオリンなどの弦楽器が使われている演奏もある。楽器使用は多くのムスリムたちにとってある程度既成事実になりつつあるようにみえる。これはあたかも音楽の受容について、かつてキリスト教会が数世紀前に辿った歴史を今日イスラームという宗教がなぞっている過程であるように思われる。もしこのまま、法学者を巻き込みながら、大多数のムスリム達にとって楽器が許容される方向に動いていくのであれば、20世紀末から21世紀初頭という時代はイスラームという宗教にとって大きな転換期として後世理解されることになるであろう。

ただしナシード・ディーニーに携わる者のなかには、今でも無伴奏の歌のみしか演奏しないという場合もある。そのような場合、楽器の不使用ということは真にイスラーム的であるという保守伝統的な解釈を前面に掲げながら自分たちの音楽を宣伝するのである。

さらに中東以外の地域におけるイスラームの広がりとともに、ナシード・ディーニーは人気があるジャンルのひとつとなっている。現在このジャンルでもっとも有名な歌手・音楽家としてサミー・ユースフがいる。幼い頃に両親と共にイランからイギリスに移住しロンドンで近代的世俗主義教育を受けており、彼の生い立ちと生活環境（中東地域のアラブ・イスラーム圏外で異教徒や世俗主義者に囲まれながら生きる）などは、欧米に数多く生活する移民のもしくは改宗したムスリムと多くの共通項がある。それと同時に、アラビア語話者ではないが正調アラビア語の発音を身に付けるためにタジュウィドを勉強し、中東アラブ世界のムスリムによっても広く支持されている。

サミー・ユースフのナシード・ディーニーには、歌詞内容こそイスラームの教えと合致しているが、弦楽器やエレキ楽器も含む多種の楽器が使われており、この楽器使用という点でイスラームの戒律から逸脱したもので

あるという非難を受けることがある。この種のナシード・ディーニーはプライベートの場で聴くことがあるという事実をフィールド・ワークをする中で発見した。モスクでの礼拝を司るイマームを含むような人達も、表向きは音楽を非難するものの、他のムスリムに隠れて陰で楽しむことがあるのだ。

ナシード・ディーニーは、イスラームの宗教復興の動きの中で、宗教的に正しくありたいという思いを抱きながらも、音楽も聴きたいという多くのムスリムの人達の支持を集めている（青柳孝洋 2009）。上述したように、無伴奏ということを宣伝する人達や、アフガニスタンのタリバンのように保守回帰と見られる動きが一部であるものの、今後は今日のムスリムにとって現実世界で受け入れ可能な音楽、すなわち楽器使用が一般的になり、ナシード・ディーニーという宗教歌謡のジャンルでもその人々のテイストの変化に対応していくことが予測される。

調査開始当初に想定したものの調査が進展してから修正した項目も多い。代表的なものは、ナセル的、あるいはバース党的なアラブ主義のイデオロギーである。政治主導による、アラブの統一は近代的な目標であったかもしれない。しかし、現代の社会状況には合わないものとなっている。その理由のひとつとして考えられるのは、商業的なグローバル化が進むなかで、資本主義的価値観が浸透してきたことである。オルタナティブとしての価値観を提示していた共産主義がソヴィエト連邦の崩壊や東西冷戦の終焉とともに効力を失い、汎アラブ主義も勢いをなくしている。政治的なイデオロギーは前時代的なものとして有効性を失ってしまっているということである。

上記の政治的イデオロギーの喪失の空白を埋める形で力を増してきたのが、イスラームの宗教復興運動である。イスラーム主義、あるいはイスラーム原理主義とも称されることの多い、宗教的価値観は本研究の構想時において、あたかも今後のアラブ世界において人々の行動規範を支配する政治的イデオロギーとして君臨していくもののように思われた。しかしイラクでのサダム政権崩壊後の混乱の中で過激化した宗派間の暴力的対立やイスラームを掲げるアル・カイダ系の団体のテロ事件など、宗教的イデオロギーに頼る危険性も認識されてきている。20世紀末に「イスラームこそ答えだ！」として、現代社会の諸問題について、シャリアに則ったイスラーム社会を実現すれば、解決することが出来るとした考えに、今日イスラーム世界の多くの人々は疑問を持っているようである。

なお、現代という時代は視覚メディアが大

きな役割を担っている社会であることが、現代大衆ポピュラー音楽の発展に大きな影響を与えていることに留意しておきたい。20世紀後期以降のアメリカ音楽文化ではミュージック・ビデオが重要な宣伝の手段として用いられてきた。この視覚メディアは欧米のポップスだけでなく、アラブのポピュラー音楽に対しても、決定的に重要である。すなわち、若い女性によるダンスが画面に登場するミュージック・ビデオなしにはおそらく今のようなアラブ・ポップの隆盛はなかったであろう（cf. 青柳孝洋 2010）。このようなイスラーム的教えに対して疑問符を提示しているかのようなアラブ・ポップがある一方、そのオルタナティブな存在としてより宗教的に敬虔であろうとするムスリム達の間で人気化するのがナシード・ディーニーである。

ミュージック・ビデオの登場に加えて、アラブ世界に重要な変化の契機をもたらしたのが、衛星放送とインターネットの普及である。これら2つは情報の伝達のグローバル化を飛躍的に推進させ、特に後者は昨今のアラブの春と呼ばれるアラブ世界各国における一連の独裁政権打倒運動に極めて重要な役割を担ったことは周知のとおりである。この2つの情報伝達の手段は政治の世界だけでなく、文化社会のあらゆる分野において、非常に重要な影響を及ぼしつつあり、それは大衆音楽の世界でも顕著である。

アラブ・ポップが現在ある姿になったのも、ミュージック・ビデオが衛星放送という伝達手段によって国境を越えた形でアラブの多くの国の各家庭に配信されたからである。そしてインターネットの普及はより自由な情報交換を可能にし、音楽家たちは、既存の大手レコード会社などを通さなくても、自分たちが制作した音楽とビデオを世界に向けて公開・宣伝していくことを可能にした。

最後に、イスラームという宗教を扱う多くの研究について言えることであるかも知れないことだが、本研究のようにムスリム達の間で意見が激しく分かれる音楽という題材を扱う場合は特に難しく、今後にわたって研究を継続していく必要がある課題である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

① 青柳孝洋、Modernity as Implemented in Arab Sound Culture of the East Mediterranean (地中海東岸地域のアラブ音楽文化にみる近代)、ABSTRACTS ICTM 2011、査読有、2011、p7

② 青柳孝洋、Modern Nasheed Deeni for Muslims Amid Globalization (グローバル化する社会のムスリムと新しいナシード・ディーニー) Abstracts for Society for Ethnomusicology 54th Annual Meeting、査読有、2009、p4

③ 青柳孝洋、イスラーム的歌謡ナシード・ディーニーの展開—宗教的制約と現代的側面、日本文化人類学会第42回研究大会発表要旨集、査読無、2008、p139

〔学会発表〕(計3件)

① 青柳孝洋、Modernity as Implemented in Arab Sound Culture of the East Mediterranean: Media, Mosque, Madrasa (東地中海沿岸地域のアラブ音文化の近代性—メディアとモスクとマドラサ)、International Council for Traditional Music、2011年07月18日、カナダ、ニューファンドランド、メモリアル大学

② 青柳孝洋、Protest against and Submission to Globalization: Images of Muslims in Music Video of Nasheed Deeni (グローバル化への異議申し立てと服従—宗教歌謡の音楽宣伝ビデオにみられるムスリム像)、Society for Ethnomusicology、2009年11月22日、メキシコ合衆国メキシコ市

③ 青柳孝洋、イスラーム的歌謡ナシード・ディーニーの展開—宗教的制約と現代的側面、日本文化人類学会、2008年5月31日、京都府(京都大学)

〔図書〕(計3件)

① 青柳孝洋、株式会社スタイルノート、「近・現代アラブ歌謡2人のディーヴァ」『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない』、2010、pp. 164~181 (単著)

② 青柳孝洋、他、株式会社スタイルノート、「アラブ音楽入門—マカームとは何か?、イーカーウとは何か?」、『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない』、2010、pp. 246~269 (共著)

③ 青柳孝洋、他、株式会社スタイルノート、「中東の近・現代音楽をめぐって」、『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない』、2010、pp. 270~295 (共著)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青柳 孝洋 (AOYAGI TAKAHIRO)
岐阜大学・教育学部・准教授
研究者番号：10377690

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：